



複言語環境で育つ就学前幼児と保護者を 地域で支えるために必要なこと

—プレススクール事業の実施・改善に向けた
文献調査から—

川田麻記（桜美林大学）

子どもの日本語教育研究会 第9回大会

2024年3月9日(土) 前半・研究I

※ 本研究は、JSPS科学研究費（挑戦的研究萌芽）JP20K20842の助成を受けています。

研究の背景と目的

- 内田(2021):
 - 就学前に適切な支援が受けられるかどうかで生じる教育格差の問題
→ プレスクール事業の重要性
 - 就学後の学校生活・学校文化への子どもたちの「適応」の在り方をどのように捉えるかで、プレスクール等の修学準備支援は同化主義的な支援に陥りやすい
→ どのような支援が子どもたちの学びに向き合う力を育てるか
→ その実践を批判的に問い直す
- 本研究の目的:
 - 地域で行われるプレススクールをより良い実践・運営につなげるために必要なことは何かを探る。
 - 関連する実践・研究の動向を文献調査によって把握する。
 - 今後求められる実践・研究を模索する。

文献調査の分析対象の選定と分析方法

- 文献の収集方法（検索期間は2024年1月3～5日）
 - 「PRISMA 2020 声明」（上岡他2021）を参照
 - 「**子どもの日本語教育**」に関する文献が多く掲載されている『日本語教育』『異文化間教育』『子どもの日本語教育研究』をJ-Stageで選択
 - 以下のキーワードの組み合わせで日本語の文献検索をし、**30件**収集

【キーワード】 「プレスクール+日本語」「プレスクール+地域」
「プレスクール+幼児/子ども+外国」「就学前+日本語」
「就学前+幼児/子ども+外国」「就学前+幼児/子ども+外国」
「就学前+外国+地域」「就学前+幼児/子ども+日本語」

- 次にCiNiiを利用し、紀要や論集、学会予稿集も含めて同じキーワードの組み合わせで検索し、上記と重複しない日本語の文献**17件**収集。
- **合計47件**

文献調査の分析対象の選定

- 47件の文献から分析対象の選定
(以下のいずれかに関わるもの)
 - 実践・研究の対象が就学前幼児であるもの(海外の事例を含む)
 - 就学前幼児の日本語を含むことばの学びに言及するもの(海外の事例を含む)
 - 就学前幼児の支援に関わる大人の役割や教育観に言及するもの
- 除外(9件)
 - 小学生以上のみを対象とするもの(8件)
 - 日本語モノリンガルの就学前幼児が対象のもの(1件)
- 最終的な分析対象: **計38件**

分析方法

1. 実践・研究の**対象**(就学前幼児・周囲の大人・支援の在り方等)、**目的**(就学前幼児の語彙習得等の実態把握・就学前支援の報告・課題整理等)、実践・研究が行われた**場所**(国内・海外)で分類。
2. 同化主義的な支援に陥りがちな就学前の支援活動について
 - ・ 支援者がどのような意識をもっているのか(いないのか)
 - ・ どのような対策や活動が行われているのか(いないのか)
3. 各文献で課題とされていることに、どんな傾向があるか

表1 就学前幼児に関わる文献の分類と件数

分類		件数	文献情報
① 就学前幼児を直接的に対象とした調査・研究・実践	就学前幼児を主な対象とする支援の実践報告	8	14 佐藤・ヤン(2008), 矢沢(2013), 矢沢・高橋(2015), 劉他(2013), 坪井他(2016), 松田他(2018), 内田(2021), 山下(2022)
	就学前幼児の数や語彙習得等の実態把握	6	
② 就学前幼児に関わる大人(保護者・支援者・保育士)が対象の研究		8	李他(2017), ゴロウイナ・吉田(2017), 荻田・新谷(2019), 額賀(2019), 井濃内・井出(2020), 品川(2021), 佐々木(2021), 藤原(2022)
③ 就学前幼児に関する文献や実践のレビューに基づく課題整理・支援のあり方		6	飯高(2010), 塘(2015), 内田(2018), 西川他(2018), 西川・劉(2020), 内海(2021)
④ 異なる専門領域から読み解く実践・研究へのまなざし		3	山田(2015), 齋藤他(2015), 田淵(2015)
⑤ 海外の事例からの示唆		7	平高(2008), 奥村(2010), 管田(2010), 内田(2014), 伊藤・八尾(2017), 立花(2017), 深澤(2020)

表2 就学前の幼児を対象とした支援の実践の目的

	就学前支援の実践の目的	文献情報
1	体系的かつ集中的な日本語指導を通して、教科学習・学校生活につながる日本語教育支援(p.4)	佐藤・ヤン (2008)
2	子どもたちが日本の小学校に入る時、入ってから、不安なことや困ることが少なくなるよう、簡単な日本語や学校の習慣を教える (p.47)	矢沢 (2013)
3	就学前準備教育、就学児を持つ保護者への支援、文化的な多様性への寛容な態度の育成 (p.18)	矢沢・高橋 (2015)
4	乳幼児期から多文化・多言語環境に育つ子どもたちの「発達権」「学習権」を保障するための教育支援システムの構築(p.123)	劉他 (2013)
5	幼稚園・保育園で問題がなかった児童の入学後のギャップの問題を解決するための児童と保護者への支援。巡回による個別指導、拠点園での親子を対象とした集団指導(p.40)	坪井他 (2016)
6	学校教育の入り口に立とうとする子どもとその家庭が抱えるリスクを軽減する。(p.19) ①在籍園での個別巡回指導、②拠点での集団指導、③保護者指導(説明会)(p.27)	内田 (2021)
7	子どもが、自らの多様な言語的・文化的背景やアイデンティティを肯定し、それらに自信や価値を感じられるようになること。(p.57)	松田他 (2018)
8	外国につながる子どもの日本語及び母語・継承語を育む具体的な支援を行うため。外国につながる子どもが得意ではない言語に興味を持ったり、両言語を使用する活動を通して新しいことばを知ったりする等、両言語で何かが「できた」という体験を提供すること。(p.33)	山下 (2022)

就学準備支援が陥りやすい同化主義的な側面について



- 就学準備を目的とした支援が、その性質上、同化主義的な支援に陥りやすいという側面への批判的視点を踏まえた記述が具体的にあったのは内田(2021)のみ。
→ しかし、8件すべてで対象幼児の母語・母文化への配慮に関する言及あり
- 2009年愛知県のプレスクール・マニュアル公開
- マニュアル公開前の実践
 - 佐藤・ヤン(2008)
幼児の日本語学習に特化した集中的な実践、日本語の語彙・表現の学習が中心
- マニュアル公開後の実践
 - 矢沢(2013), 矢沢・高橋(2015) 
 - 劉他(2013)
 - 坪井他(2016), 内田(2021)
 - 松田他(2018), 山下(2022) 
幼児の主体的な学び、母語・継承語教育、親子の関わりを重視した取組の効果を重視

表1 就学前幼児に関わる文献の分類と件数

分類		件数	文献情報
① 就学前幼児を直接的に対象とした調査・研究・実践	就学前幼児を主な対象とする支援の実践報告	8	14 佐藤・ヤン(2008), 矢沢(2013), 矢沢・高橋(2015), 劉他(2013), 坪井他(2016), 松田他(2018), 内田(2021), 山下(2022)
	就学前幼児の数や語彙習得等の実態把握	6	
② 就学前幼児に関わる大人(保護者・支援者・保育士)が対象の研究		8	李他(2017), ゴロウイナ・吉田(2017), 荻田・新谷(2019), 額賀(2019), 井濃内・井出(2020), 品川(2021), 佐々木(2021), 藤原(2022)
③ 就学前幼児に関する文献や実践のレビューに基づく課題整理・支援のあり方		6	飯高(2010), 塘(2015), 内田(2018), 西川他(2018), 西川・劉(2020), 内海(2021)
④ 異なる専門領域から読み解く実践・研究へのまなざし		3	山田(2015), 齋藤他(2015), 田淵(2015)
⑤ 海外の事例からの示唆		7	平高(2008), 奥村(2010), 管田(2010), 内田(2014), 伊藤・八尾(2017), 立花(2017), 深澤(2020)

就学準備支援が陥りやすい同化主義的な側面について

- ・ カテゴリ② 特に散在地域の支援者・支援団体を対象とする研究
 - ・ 額賀(2019)
 - ・ 依然としてボランティアに依存する傾向が強い
 - 支援体制の脆弱性
 - ・ 荻田・新谷(2019)
 - ・ 就学前日本語教育の取組には差がある
 - ・ プレスクールに対する認識
 - 逼迫した状況の外国人家庭が多く、目の前の生活上の支援が優先
 - 「学校の勉強がはじまってからその補充をすることが教室の目的」
 - 「先取りして学ぶ必要はない」
 - 「未就学児は、兄弟のついでに連れてきている」という域を超えない存在」
 - プレスクールの重要性が十分に理解されていない

①ー⑤にまたがって指摘される「連携」の課題

- 行政・地域団体・幼保園・学校・保護者・専門家・大学等との連携の重要性
 - 関係者間（例：保護者と保育者・学校関係者、支援者間、相談機関間）での認識のずれや齟齬、情報共有の不徹底、連携不足、体制の不安定さ

佐藤・ヤン(2008), 劉他(2013), 名倉・二井(2023), 李他(2017), 荻田・新谷(2019), 額賀(2019), 井濃内・井出(2020), 藤原(2022), 内海(2021), 山田(2015), 田淵(2015), 管田(2010), 内田(2014), 伊藤・八尾(2017)

- こうした問題に対する解決策や、持続可能な連携体制の構築にいか
にアプローチするかを具体的に論じた文献は多くない。

①ー⑤にまたがって指摘される「連携」の課題

(例)

- ・ カテゴリ②： 井濃内・井出(2020)

保護者と保育者の間にみられる「ことばの壁」解体の重要性を指摘。具体的には、相互理解にお互いがわかる共通言語が必要という言語イデオロギーや、わかってほしいこと事柄のずれ等が存在するやりとりの中に研究者が介入し、「ことばの観」を解きほぐすことで信頼関係の構築を促す可能性を指摘

- ・ カテゴリ⑤： 管田(2010)

保護者と保育者の間のパートナーシップ構築の重要性を指摘。

パートナーシップとは、「トップダウンではない双方向的な関わり合い」(p.113)

保育者の側のコミュニケーションスキルを高める方法や活動や、保護者の参加を妨げとなっている要因を指摘し、パートナーシップ構築の糸口を探る必要性を主張。

「越境的な対話」(香川 2015)の考察

- ・ 地域で実施されているプレスクールの運営に関しては、保護者・保育者間以外の多様な立場の人々関わる。
→ 地域団体と行政、地域の支援者と保護者、保育園関係者、小学校関係者、支援に関わる大学関係者など
- ・ 今後は、異なる多様な立場の人々による「越境的な対話」(香川、2015)の考察が今後より参考になるのではないか。

【参考】 高校の日本語教育における連携の事例 (今回の分析対象外)

寄本(2023):

高校進学を目指す外国につながる生徒の支援ネットワークに着目し、人と人、組織と組織、人と組織を繋ぐ結節点となる人へのインタビューから、その役割とつながりの広がりを示唆。

大津・浜田(2023):

高校教員と外部支援者の日本語教師の間で交わされた「連絡帳」の談話分析を通して、両者のコミュニケーション上の課題を指摘。支援の充実に向けた情報共有のあり方の改善方法を示唆。

より良いプレスクールの支援体制構築のために

- 今後探っていく必要性や意義があると考えられること
 - 就学前幼児の学びを支える異なる立場の関係者が支援の目的と併せて教育格差や同化主義への批判的まなざしを共有しているか
 - 特に、ボランティア団体で行われる場合は、その連携が一部の関係者に極端な負担を強いるものになってないか、齟齬の原因は何か等
- 課題
 - プレスクール事業は近年徐々に広がりを見せているが、その実践の報告・研究の数はまだ十分とは言えない。
 - 質の良いプレスクール事業を目指すためにも、**幼児の成長を中心に考える関係者間の互恵性(内田2021)**に関わる実践・研究が求められる

引用文献

- ・ 愛知県 (2009) 「愛知県プレスクール・マニュアル」URL:
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/0000028953.html> (最終閲覧日2024/2/23)
- ・ 井濃内歩・井出里咲子(2020)「保育園と外国人保護者のコミュニケーション—ことばを問い、フィールドとかがわる言語人類学的実践研究—」『言語文化教育研究会』第18巻、pp.61-81.
- ・ 内田千春(2021)「就学前教育・保育の視点から教育格差を考える—言語文化的に多様な子どもたちと接続期の支援—」『異文化間教育』54号、pp. 19-31.
- ・ 大津友美・浜田かおり(2023)「日本語教師と高校教員の「連絡帳」を用いた異分野間コミュニケーション—外国人高校生への日本語学習支援のための連携体制構築をめざして—」『東京外国語大学論集』第104号, pp. 97-112.
- ・ 香川秀太(2015)「「越境的な対話と学び」とは何か—プロセス、実践方法、理論—」『越境する対話と学び—異質な人・組織・コミュニティをつなぐ—』香川秀太・青山征彦(編)第2章、pp.35-64. 新曜社.
- ・ 上岡洋晴・金子善博・津谷喜一郎・中山健夫・折笠秀樹(2021)「「PRISMA 2020声明:システマティック・レビュー報告のための更新版ガイドライン」の解説と日本語訳」『薬理と治療』Vol.9, no. 6, pp.831-842.
- ・ 寄本圭子(2023)「外国にルーツを持つ子どもたちに対する高校進学のための支援の現状—大阪市西淀川区における支援ネットワークの構築に着目して—」『文化資源学ジャーナル』No.2, pp.40-62.

分析対象とした文献のリスト

1. 飯高京子(2010)「日系移住労働者子女の日本語習得と言語・コミュニケーションの支援」『日本語教育』146巻 pp. 4-17.
2. 伊藤頼子・八尾由希子(2017)「コミュニティー形成を目指した継承語教育クラブの立ち上げ—モンゴル・ウランバートルにおける試み—」『子どもの日本語教育研究』1号 pp. 76-89.
3. 井濃内 歩・井出里咲子(2020)「保育園と外国人保護者のコミュニケーション ことばを問い、フィールドとかわる言語人類学的実践研究」『言語文化教育研究』18巻 pp. 61-81.
4. 内海由美子(2021)「多文化の子ともたちを支える地域の支援体制—今後の展開に向けて」『子どもの日本語教育研究』4号 pp. 25-30.
5. 内田千春(2014)「多文化地域体験を組み込んだ教員養成プログラムの事例報告—アメリカA大学の実践より—」『異文化間教育40号』, pp. 112-127.
6. 内田千春(2018)「複言語環境で育つ乳幼児期の子どもの「ことはの獲得」を考える」『子どもの日本語教育研究』第1号, pp.31-37.
7. 内田千春(2021)「就学前教育・保育の視点から教育格差を考える—言語文化的に多様な子どもたちと接続期の支援—」『異文化間教育』54号, pp. 19-31.
8. 荻田朋子・新谷遥(2019)「奈良県における就学前日本語教育の現状と課題：奈良県の地域外国人支援活動団体へのヒアリングから」『日本語・日本文化研究』(25), 39-51, 2019 京都外国語大学留学生別科
9. 奥村三菜子(2010)「ドイツの日本語補習校幼稚部における現状・実践・考察」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』第6号, pp.80-95.
10. 管田貴子(2010)「ヘッド・スタートにおける保育者と保護者との連携」『弘前大学教育学部紀要』103号, pp.111-117.

分析対象とした文献のリスト

11. ゴロウイナ クセーニヤ, 吉田 千春(2017)「就学前児童への外国人親の母語の継承における社会心理的要因在日外国人母親によるナラティブを中心に」『言語文化教育研究』15巻 pp. 92-108.
12. 齋藤ひろみ・佐藤郡衛・野山広・浜田麻里・見世千賀子・南浦涼介(2015)『実践をまなざし、現場を動かす異文化間教育学とは?—テーマ設定の趣旨と成果・課題—』『異文化間教育』41巻 pp. 1-15
13. 佐々木 由美子(2021)「外国人保育士のキャリア形成—周辺化されている自分から当事者としての自分へ—」『子どもの日本語教育研究』4号 pp. 15-24.
14. 佐藤弘枝・ヤン ジョンヨン(2008)「日本語プレスクールの実践報告--群馬県伊勢崎市立南小学校での取り組み」『群馬県立女子大学国文学研究』群馬県立女子大学国語国文学会編(28), pp.1-18.
15. 品川ひろみ(2021)「外国人集住地域における多文化保育の現状とその背景：日本とスウェーデンの比較から」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』138巻, pp.31-54.
16. 柴山真琴、ヒアルケ(當山)千咲、高橋登、池上摩希子(2014)「同時バイリンガル幼児の萌芽的読み書き行動の形成過程」母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究 第10号, pp.91-115
17. 白垣潤・梅下弘樹(2021)「愛知県三河地方の保育所・幼稚園等における 在日ブラジル人の実態に関する研究」『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 研究紀要』54巻, pp. 111-119.
18. 立花有希 (2017)「ドイツの就学前教育における移民の子どもたちの言語発達の評価と支援—ヘッセン州における取組を中心として—」『異文化間教育』45巻 pp. 108-122.
19. 田渕 五十生(2015)「人権教育の立場から現場を動かす「まなざし」とは」『異文化間教育』41巻 pp. 47-62.
20. 塘 利枝子(2015)「生涯発達の視点を踏まえた日本における外国にルーツを持つ人への支援—保育・教育・子育ての視点から—」『異文化間教育』41巻 pp. 76-94.

分析対象とした文献のリスト

21. 坪井牧子・松原拓位・臼井伶佳・内田千春(2016)「プレスクールから始まる子どもの日本語支援—親子で学習「きらきらかがやく1年生」に—」『子どもの日本語教育研究会第』一回大会 ポスターNo.11 実践発表 pp.40-41.
22. 名倉一美・二井紀美子(2023)「就学前保育施設の行政・学校・その他関連機関との情報共有—発達の気になる外国にルーツをもつ幼児の就学支援のために—」『日本教育学会大会研究発表要項』 82(0), pp. 109-110.
23. 西川朋美・本林響子・劉蓉蓉 (2018)「外国につながる就学前後の子どもたちへの文字言語習得支援：継承語と日本語への支援の可能性」『言語文化と日本語教育』53巻, p. 21-22.
24. 西川 朋美・劉 蓉蓉(2020)「日本で育つ外国ルーツの子ども・若者と継承語学習—日本の学校に通う子どもたちが家庭外で継承語を学ぶ場に関する文献調査—」『子どもの日本語教育研究』 3号 pp. 18-37.
25. 額賀 美紗子(2019)「外国人家族の《見えない》子育てニーズと資源仲介組織の役割—外国人散在地域におけるフィールド調査からの政策提言—」『異文化間教育』 49巻 pp. 44-60.
26. 乗次章子(2014)「バイリンガル環境にある幼児の文字概念認知と受容語彙の発達調査」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』 第10号, pp. 116-135.
27. 平高史也(2008)「ドイツにおける移民の受け入れと言語教育—ドイツ語教育を中心として—」『日本語教育』 138号 pp. 43-52.
28. 深澤伸子(2020)「親が全員で活動を創り運営する「継承語教室」の実践」『子どもの日本語教育研究』 3号 pp.67-87.
29. 藤原安佐(2022)「日本語を母語としない保護者とのコミュニケーション：北海道A保育園の調査から支援の在り方を考える」『日本語・国際教育研究紀要』 25号, pp. 45-67.
30. 二井紀美子・緩利誠(2015)「在日外国人児童の語彙習得の実態—異なる教育環境間の比較分析を通して—」『愛知教育大学教育創造開発機構紀要』 巻5, pp.123-131.

分析対象とした文献のリスト

31. 松田 朋子・チッターラーラック チャニカー・柳 恒嬌・周 鑫茹・唐 姣姣・閔 曉晗・劉 蓉蓉・本林 響子・西川 朋美(2018)「多言語での初期リテラシーを育てる試み：就学前後の子どもたちを対象とした実践」『言語文化と日本語教育』53巻, pp.57-59.
32. 李 如意・浜田 麻里(2021)「中国人3歳児の幼稚園生活への適応—日本語発話の産出と母語使用に注目して—」『子どもの日本語教育研究』4号 pp. 43-62.
33. 李剣・木村留美子・津田朗子(2017)「石川県に在住する中国人母親の子育て支援に関する検討」『金沢大学つるま保健学会誌』39巻, 2号, pp. 171-179.
34. 劉郷英・川上貴美恵・中田照子(2013)「日本における多文化・多言語環境に育つ外国人幼児の言語発達の 実態と学習支援の現状と課題に関する検討：B県A市におけるプレスクール事業の取り組みを中心に」『福山市立大学教育学部研究紀要』1巻, pp. 123-133.
35. 矢沢 悦子(2013)「大和プレスクール「にほんごひろば」での取り組み：日本語と母語(継承語)のある場、いろいろな「異」と共生する場で子どもたちと」『イマ×ココ：言語教育実践』[1], pp. 46-50, ココ出版.
36. 矢沢悦子・高橋悦子(2015)「実践報告 大和プレスクール「にほんごひろば」—小学校入学前の多様な言語背景を持つ子どもたちへの就学前教育・保護者支援—」『異文化間教育』41巻, pp. 16-31.
37. 山下佳那子・唐姣姣・姜芳雨(2022)「外国につながる子どもを対象にした、日本語及び母語・継承語を育むワークショップの形成過程」『子どもの日本語教育研究』5号 pp. 32-52.
38. 山田 千明(2015)「現場と共に動いていく異文化間教育について考える—就学前教育と初等教育の接続の立場から—」『異文化間教育』41巻 pp. 32-46.